

木場潟を研究フィールドに 水質浄化の技術を開発



人工浮島のイメージ

産学官民で取り組んでいる浮島プロジェクトは、人工浮島を木場潟に浮かべ、浮島に固定する多孔質の発泡セラミックスに水中のリンや窒素などの富栄養化源を吸着させ、潟外へ搬出することにより、水質浄化を図るものです（平成28年度実施予定）。搬出する発泡セラミックスは、土壌改良材として農業に活用できるよう研究を行っています。

また、この科学的仕組みを教材としても利用し、中海小学校では6月から11月まで校内の池にミニ浮島を浮かべて、児童による水質の測定を行っています。

水質浄化の取り組み

「こまつモデル」を展開！

「小松発」全国でも珍しい 排水機場を活用した水質実験



前川水門（今江町1丁目）

11月から12月にかけて、木場潟下流の今江潟排水機場にある前川水門やポンプを活用して、通常50センチ（海拔水位）の木場潟の水位を0～20センチに下げる実験を行います。

この結果、水の循環が良くなることで植物プランクトンの増殖を抑え、水質改善が図られるかどうかを検証します。



木場潟の美しい自然の姿をもう一度！

問い合わせ

水郷のまち こまつのシンボル「木場潟」

かつて木材の集積地だった木場潟では、山から切り出された木材が舟で運ばれ、そこには湖面一面にヒシなどの水草が生い茂っていました。しかし、生活様式が変化するにつれ、湖水の水質は悪化。水辺にすむ生き物達に様々な影響を与え、昭和55年以降、水生植物が激減してしまいました。

市民力できれいな 木場潟を取り戻そう

豊かな水辺環境を取り戻すために、地域住民や多くのボランティアが力を合わせて美化活動や水草の再生、ヨシ原の保全、フローラル活動などに取り組んできました。

このような市民一人ひとりの力に加えて、行政も大日川からの清水の導入や下水道の整備を行い、現在は大学や企業と連携した水質浄化プロジェクトも展開しています。

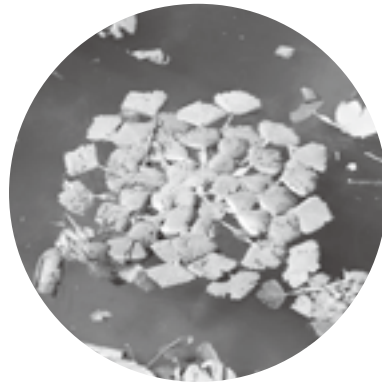
35年ぶりに「ヒシ」が復活

みんなの力で、少しずつきれいになってきた木場潟の水。それを証明するかのよう、今年、絶滅していたヒシが35年ぶりに復活し、水質も昭和50年頃の水準まで戻ってきました。

霊峰白山を映す水面、水草が生い茂り、鳥や魚が群れる美しい木場潟を次世代につなげ、私達みんなの手で木場潟の自然と文化を大切に守っていきましょう。



群生する水草に集まる野鳥



水面に葉を浮かべるヒシ



かつて水草に覆われた木場潟に入る際には、水底に落ちたとげのあるヒシの種を踏まないよう気を付けていたものです。舟小屋付近に定着した水草には、トンボが葉に卵を産み、たくさん野鳥もえさを求めてやってきます。新しい自然のサイクルが生まれているのを肌で感じ、とてもうれしく思います。

代表理事 藤田勝男さん

エコロジー推進課 ☎24・8067



木場潟再生プロジェクトリーダー 土田準さん

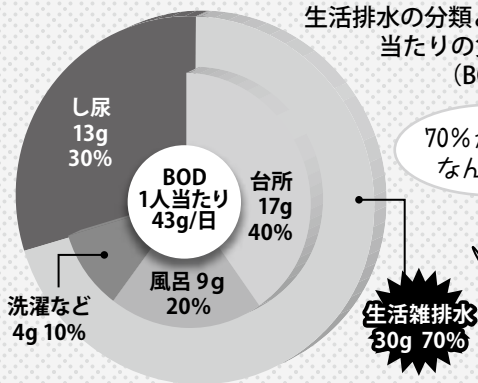
水生植物復活プロジェクトで、失敗ながらも根気強くチャレンジし、今年ようやくヒシが定着しました。浮葉植物の復活で生態系のバランスが良くなれば水質浄化も期待できます。今後はヒツジグザなどの水草も植えていく予定です。自然の力を借りて、かつての木場潟の姿に近づけていきたいです。

下水道に接続しよう

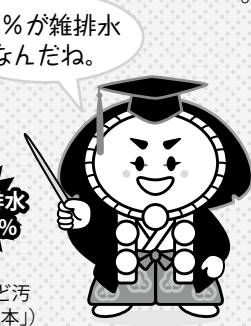
継続補助を実施中！

人は1日におよそ250リットルの水を使います。このうちトイレからの排水を除いたものを生活雑排水と言います。

生活排水の分類と1日1人当たりの負荷割合（BOD換算）



BOD：水の汚れを表す指標の一つで数値が大きいほど汚れていることを表します。（出典：環境省「生活排水読本」）



木場潟流域においても、一日も早く下水道や合併浄化槽に切り替えることで、生活排水をきれいな水にして、自然に返すことができます。

平成28年3月末まで期間限定の接続補助を行っていますので、ぜひこの機会にご利用ください。

問い合わせ 料金業務課 ☎24・8098